

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】平成 17 年 11 月 10 日 (2005.11.10)

【公開番号】特開 2001-292208 (P2001-292208A)
【公開日】平成 13 年 10 月 19 日 (2001.10.19)
【出願番号】特願 2001-26059 (P2001-26059)
【国際特許分類第 7 版】
H 0 4 M 1/02
【F I】
H 0 4 M 1/02 C

【手続補正書】
【提出日】平成 17 年 9 月 20 日 (2005.9.20)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

携帯サイズの機器ケース内に携帯通信機用の回路モジュールを収納してなる携帯通信機において、

前記機器ケースは、携帯通信機本体の第 1 面側を構成する第 1 ケース部材と、携帯通信機本体の第 2 面側を構成する第 2 ケース部材とで構成され、

前記回路モジュールは、マイクを含む携帯通信機用の電子部品が搭載された回路基板と、この回路基板とほぼ同サイズの剛性を有する保持部材と、で構成され、この保持部材を前記回路基板と重ね合わせて固定することで当該回路基板全体を補強する構造をなし、

前記回路モジュールは、前記第 1 ケース部材或いは第 2 ケース部材のうちの少なくとも一方の内面に固定され、当該第 1 ケース部材と第 2 ケース部材とはネジ止めで固定されていること、

を特徴とする携帯通信機。

【請求項 2】

前記回路モジュールは、前記第 1 ケースの内面にネジ止されていることを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信機。

【請求項 3】

前記回路モジュールは、前記第 2 ケースと一緒に前記第 1 ケースの内面にネジ止されていることを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信機。

【請求項 4】

前記機器ケースの上部及び下部には、弾性体からなる緩衝部材が取り付けられていることを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信機。

【請求項 5】

携帯サイズの機器ケース内に携帯通信機用の回路モジュールを収納してなる携帯通信機において、

前記機器ケースは、携帯通信機本体の第 1 面側を構成する第 1 ケース部材と、携帯通信機本体の第 2 面側を構成する第 2 ケース部材とで構成され、

前記第 1 ケース部材の外表面は、上方に突出する複数の操作キーが設けられ、前記機器ケースを前記第 1 ケース部材を下にして平面の上に置いたときに、この平面に前記各操作キーが当たらないように前記外表面を凹状に湾曲した形状になっている、ことを特徴とする携帯通信機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３３】

【発明の効果】

請求項１の発明によれば、第１ケース部材と第２ケース部材とで構成される機器ケース内に、携帯通信機用の電子部品が搭載された回路基板とこの回路基板全体の補強を行う保持部材とで構成した回路モジュールを収納し、この回路モジュールを上記機器ケースを第１ケース部材或いは第２ケース部材の少なくとも一方の内面に固定し、更に上記第１ケース部材と第２ケース部材とをネジ止めで固定するようにしたので、携帯通信機用の電子部品の搭載される回路基板全体を補強する保持部材、及び機器ケース全体で確実に固定できるものであり、回路モジュールを含む携帯通信機全体の耐衝撃性を大幅に向上させることができる。

請求項５の発明によれば、携帯通信機の機器ケースを構成する第１ケース部材と第２ケース部材の内で、複数の操作キーが設けられる第１ケース部材の外表面を凹状に湾曲した形状にしたので、この機器ケースを第１ケース部材を下にして平面に置いたときに、その平面に前記操作キーが当たらないようになり、操作キーの保護が可能になると共に、無用な誤操作を未然に防止することができる。